**足立区障がい福祉センター生活体験室**

**介護職員によるたんの吸引等の実施のための研修**

**(特定の者対象)　　基本研修　実施要項**

# １　研修の概要

### **（１）目的**

# 平成２４年度から施行された介護職員等によるたんの吸引及び経管栄養（以下「たんの吸引

# 等」という。）の制度化について、都内の居宅系事業所等において、たんの吸引等を必要とする特定の個人）に対して、医師、看護職員との連携の下により安全に実施するため、たんの吸引等を適切に行うことができる介護職員等を養成することを目的として、介護職員等を対象にたんの吸引等研修（特定の者対象）を実施します。

### **（２）研修実施機関**

足立区障がい福祉センター生活体験室（以下「センター」という。）

※　センターが東京都より喀痰吸引等研修機関の登録を受けて実施します。

### **（３）研修対象者**

### 以下の条件を満たす必要があります。

①　「表１」の対象施設･事業所に所属し、**足立区内**の障がい児・者等の特定の者に対して吸引等を行なう介護職員等であること。

②　実地研修を行う特定の利用者がいること。

③　ご利用者のかかりつけ医等から、ご利用者に対してのたんの吸引等を行うことを承認された

（または承認を受けることができる）介護職員等であること。

④　実地研修の同意書にご利用者またはそのご家族による署名等が原則できること。

表１ 「特定の者対象」研修の対象施設・事業種別

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 分野 | 事業形態 | 事業種別 | |
| 高齢者 | 在宅系  サービス | ア　訪問介護事業所 | |
| イ　通所介護事業所 | |
| ウ　夜間対応型訪問介護事業所  エ　訪問入浴介護事業所  オ　小規模多機能型居宅介護事業所 | |
| カ　認知症対応型通所介護事業所 | |
| キ　定期巡回・随時対応型訪問介護看護事業所 等 | |
| 障害者 | 施設 | ア　障害者支援施設  イ　障害福祉サービス事業所  ウ　障害児施設（医療機関を除く） | 等 |
| 在宅系 | ア　居宅介護事業所 | |
| サービス | イ　重度訪問介護事業所 等 | |
|  |  |  | |

**留意事項**

①　高齢者施設の短期入所の生活介護事業所、特別養護老人ホーム等に所属し不特定多数の利用者に対

してたんの吸引等を実施する介護職員等は「不特定多数の者対象の研修」を受講してください。

②　医療機関等に所属している介護職員等は、本研修の対象とはなりません。

**（４）研修受講の流れ（詳細については６ページの参考１を御覧ください。）**

今回の募集では基本研修を行いませんので、既に基本研修の内容を修了している必要があります。

修了証明書の交付

①**基本研修**の受講

（講義＋演習）⇒筆記試験

②**実地研修**の実施

（指導看護師が評価）

③修了証書の交付

指導看護師は、**指導者養成研修**を受講（自己学習形式）。

図１ 研修の基本的な流れ

ア　基本研修

基本研修は、たんの吸引等を実施するために必要な基礎知識について講義及び演習で学びます。

（ア）講義（概論）

障害児・者や高齢者の地域生活を支える法制度等について学びます。

（イ）講義（たんの吸引、経管栄養）

たんの吸引、経管栄養の仕組みや手順等についての基礎知識を学びます。

（ウ）演習（たんの吸引、経管栄養）

講義受講の後に、たんの吸引、経管栄養の実施手順を演習訓練モデルや必要な機器を用いて

演習を実施し、実地研修に臨むための基礎力を養成します。

（エ）評価（たんの吸引、経管栄養）

たんの吸引、経管栄養の各演習の終了後、基礎知識が習得できたかどうかを確認するための

筆記試験（３０分程度、択一式）を行います。

筆記試験において総正解率９割以上が合格となり、実地研修へ進むことができます。

イ　実地研修

基本研修修了後、施設や利用者の居宅等において、対象の利用者に必要な行為を実施します。

　　　なお、実地研修で指導にあたる看護師等（以下「指導看護師」という。）は、実地研修開始前

　　に指導者養成研修を受講していただく必要があります（指導者養成研修の詳細は、９ページを参

照）。

ウ　修了証明書の交付

基本研修と実地研修を修了した方に修了証明書を交付します。交付を受けた方は認定特定業務

従事者の認定申請を行ってください。（基本研修の方へは基本研修修了証明書が交付されます.）

エ　認定特定行為従事者の認定と登録特定行為事業者の登録について

本研修を修了した介護職員等が、特定の者に対してたんの吸引等を実施するためには、従事者

が居住する都道府県から「認定特定行為業務従事者 」としての認定を受けるとともに、事業所等は、「登録特定行為事業者」として登録をする必要があります。事業所申請に関する手続きについては事業所が所在する各都道府県福祉部局のＨＰ等にてご確認ください。

# ２　研修カリキュラム

### **（１）基本研修**

基本研修カリキュラムは、表２のとおり講義（８時間）、演習（１時間）及び評価（３０分）によって構成されており、原則として全てのカリキュラムを受講いただきますが、受講申込者の 研修修了状況等により受講する科目が異なります。４ページ「３ 受講科目について」をご確認 ください。

なお、それぞれの受講科目は受講決定時にお知らせいたします。

表２ 基本研修カリキュラム

**＜1日目＞**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 科目 | 内容 |
| ２時間 | **概論**  重度障害児・者等の地域生活等に関する講義 | 1. 障害者総合支援法と関係法規 2. 利用可能な制度 3. 重度障害児・者等の地域生活等 |
| ３時間 | **たんの吸引（講義）** | 1. 呼吸について 2. 呼吸異常時の病状、緊急時対応 3. 人工呼吸器について 4. 人工呼吸器に係る緊急時対応 5. 喀痰吸引概説 6. 腔内・鼻腔内・気管カニューレ内部の吸引 7. 喀痰吸引のリスク、中止要件、緊急時対応 8. 喀痰吸引の手順、留意点 等 |
| ３０分 | **たんの吸引（演習）** | 1. 喀痰吸引（口腔内） 2. 喀痰吸引（鼻腔内） 3. 喀痰吸引（気管カニューレ内部）     **・筆記試験（択一式）** |
| ３０分 | **評価** | **筆記試験（択一式）** |

**＜２日目＞**

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 時間 | 科目 | 内容 |
| ３時間 | **経管栄養（講義）** | 1. 健康状態の把握 2. 食と排泄（消化）について 3. 経管栄養概説 4. 胃ろう（腸ろう）と経鼻経管栄養 5. 経管栄養のリスク、中止要件、緊急時対応 6. 経管栄養の手順、留意点 等 |
| ３０分 | **経管栄養（演習）** | 1. 経管栄養（胃ろう・腸ろう） 2. 経管栄養（経鼻） |
| ３０分 | **評価** | **筆記試験（択一式）** |

### **（２）実地研修**

基本研修の評価（筆記試験）で合格した方のみ受講できます。実地研修では、施設や利用者の居宅等で、申請書に記載した特定行為（利用者にとって必要な行為）を実施します。

指導看護師が評価を行い、全ての項目で２回連続「手順通りに実施できる」と 評価されるま

で、繰り返し実地研修を行います。

表３ 実地研修カリキュラム

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
|  | 科目 | 内容 |
| たんの 吸引 | （１）口腔内のたんの吸引 | 指導看護師の評価において、すべて  の項目で２回連続「手順通りに実施できる」と評価されるまで実施。 |
| （２）鼻腔内のたんの吸引 |
| （３）気管カニューレ内部のたんの吸引 |
| 経管栄養 | （４）胃ろうまたは腸ろうによる経管栄養 |
| （５）経鼻経管栄養 |

※　万が一の事故等に備え、実地研修の受講者に実地研修の受講期間中、受講者の所属施設・事業所等において保険に加入してください。

# ３　受講科目について

# （１）受講科目

３ページ「表２　研修カリキュラム」に定められた科目を受講していただきます。なお、基本研修については、受講免除者以外はすべてのカリキュラムを受講いただきますが、実地研修については、利用者に必要な行為の部分のみです。

※　平成２４年３月末までに厚生労働省の通知に基づき、たんの吸引等を実施してきた介護職員等（経過措置対象者）が、引き続き同じ利用者に対してたんの吸引を実施する場合、または、平成２３年度東京都介護職員等によるたんの吸引等の実施のための研修（特定の者対象）または、平成２４年度以降に実施された特定研修（他登録研修機関が実施したものを含む）で実地研修まで修了した介護職員等が、引き続き同じ利用者に対して研修を修了した行為を実施する場合については、研修の受講は必要ありません。

研修の受講が必要な場合は、１２ページ参考２の例のようなケースです。ご確認ください。

### **（２）基本研修科目の受講免除**

受講者が経過措置対象者である場合やこれまでに特定研修を修了している場合に、基本研修が受講免除となる科目があります。基本研修の受講免除科目については、表４のとおりです。

受講免除となる科目がある場合は、「受講申込書」にご記入の上、必要書類を添付してお申し込みく

ださい。

表４ 受講免除科目

|  |  |
| --- | --- |
| ①「受講者が経過措置対象者である。」 | |
|  | ⇒基本研修における「概論」及び「たんの吸引（講義＋演習）」が**受講免除**。 |
| ②「受講者が平成２３年度他研修機関での特定研修の修了者である（基本研修のみの修了者含む）む。）。」 | |
|  | ⇒基本研修における「概論」及び「経管栄養（講義＋演習）」が**受講免除**。 |
| ③「受講者が平成２４年度以降の特定研修の修了者である（基本研修のみの修了者も含む）。」 | |
|  | ⇒基本研修において、修了した科目が**受講免除**。 |

※　①、②、③のうち、複数に該当する場合もあります。

（例：①経過措置対象者で且つ、②２３年度他研修機関特定研修修了者。等）

**４　日程及び受講申込方法について**

足立区ホームページでご確認のうえ、申請書類をダウンロードして記載の上、センターに送付してください。なお、利用者またはその家族による同意書の署名等ができない場合は、申込みができません。

**５　参加費用について**

研修への参加費用は無料です。ただし、基本研修のテキスト代・会場への往復の交通費・昼食代等の諸費用は各自でご負担願います。なお、実地研修の指導看護師に対するセンターからの謝金の支払いはありません。謝金の支払いは、受講者が所属する施設・介護事業所等から連携する訪問看護事業所等（指導看護師派遣事業所）への支払いとなります。その他、修了に係る費用等の諸費用は受講者が所属する施設･介護事業所等または各自でご負担願います。

**６　個人情報の取扱い**

申込書に記載された個人情報については、適正な管理を行い、本研修の運営以外の目的に利用

することはありません。

**７　書類の送付及び問い合わせ先**

〒１２１－０８１６

足立区梅島３－３１－１９

足立区障がい福祉センター　生活体験室

たんの吸引研修担当　宛

（電　話）０３－５６８１－０１３１

（ＦＡＸ）０３－５６８１－０１３８

### 参考１：研修の申込から修了までの流れ

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
|  | 施設・介護事業所等 | センター | 連携する訪問介護事業所等  （以下、指導看護師派遣事業所） |
| 研修申込 | ＊１　受講者取りまとめ・利用者への説明。同意書取り交わし  し  指導看護師等の確保  申請書類の提出  申請書類の準備 | 収受  承諾  指導看護師等の派遣依頼  周知 | 承諾書 |
| 受講決定  研修実施 | ※２  基本研修  実地研修  基本研修修了後  概ね３カ月間  〈介護職員等〉  （受講者）  受講決定通知送付  収受 | 受講決定  提出  修了証書  ※３  提出  指導・評価⇒評価票作成  受領  受領  指導者養成用　動画案内 | 評価票  アンケート  〈指導看護師〉  受領  指導者養成研修  （動画視聴等による自己学習） |
| 研修終了 | 交付  受領  評価票作成の  謝金支払い  特定行為業務従事者の認定申請 | 支払　※４  修了証明書 | 受領 |

※１　受講決定者については、当研修への参加について利用者への説明を行っていただき、実地研 修受講前に利用者の「同意書」を提出していただきます。

※２　評価（筆記試験）に合格すると、基本研修修了となります。基本研修の修了前に、実地研修 を行うことは出来ません。

※３　指導者養成研修を受講し、「アンケート」を提出頂いた後から、実地研修の指導が可能とな ります。

※４　**指導看護師への謝金についてはセンターからの支払いはありません。**

**受講者が所属する施設・介護事業所等から連携する訪問介護事業所等（指導看護師派遣事業所）の支払いとなりますので、ご注意ください。**

### （１）申請書類の用意

ア　周知・申込・取りまとめ（下記の図中の①を参照）

施設・介護事業所等は、所属している介護職員等に研修について周知をし、受講申込者の取りまとめをしてください。

イ　利用者（またはそのご家族）への説明・同意（下記の図中の②を参照）

利用者にたんの吸引等の制度と研修（実地研修にご協力いただくこと等）を説明し、同意を得てください（「同意書」の取り交わし）。

なお、「同意書」に利用者またはそのご家族による署名ができない場合は、研修の申込みはできません。（施設職員、管理者や後見人等の方の署名等は同意になりません。）

受講申込ができる介護職員等は、利用者のかかりつけ医等の医師から、利用者に対してたんの吸引等を行うことを承認された（または承認を受けることができる）介護職員等です。

ウ　指導看護師派遣事業所への協力依頼（下記の図中の③を参照）

（ア）実地研修では、指導看護師による指導・評価が必要になります。

（イ）介護職員等が利用者にたんの吸引等を実施する際に、連携する訪問看護事業所等にホームページに掲載している「指導看護師派遣事業所・指導看護師に実施して頂く業務について」をお渡し頂き、指導看護師に派遣依頼をしてください。

（ウ）指導看護師の派遣について承諾が得られた場合、訪問看護事業所に「承諾書」の記入を依頼し事業所で取りまとめて、申込書と一緒にセンターへ提出してください。

連携する訪問看護事業所から同意が得られない場合、主治医や自事業所等の看護師等による指導・評価も可能です。

なお、指導看護師は、原則として実際に利用者にたんの吸引等を実施する際に連携する

（予定の）訪問看護事業所等の看護師等にご依頼ください。

指導看護師 派遣事業所

施設・介護事業所等

**同意**

**承諾**

**協力依頼**

**周知**

**説明**

**申込書**

**記入**

**同意**

③

指導看護師派遣事業所への協力依頼

介護職員等

利用者

①

周知・申込・

取りまとめ

②

利用者への 説明・同意

### （２）申請書類の提出から受講決定まで

ア　申請書類提出・受講決定

（ア）施設・介護事業所等は受講申込者の申請書類を取りまとめ、センターへ提出してください。

（イ）各受講者の受講日程等を記載した「受講決定通知」は、センターより施設・介護事業所等宛に送付します。

※　受講者の決定については、センターで申込書類を確認の上、受講決定を します。受

講申込者が多数の場合には、受講できないこともありますのでご了承ください。

（ウ）施設・介護事業所等は、センターから送付された「受講決定通知」を各受講者へ周知してください。

（エ）受講決定後の受講生、利用者の組合せの変更は出来ませんので、優先順位はそのことを勘案し 選択してください。

### （３）基本研修の受講

ア　受講

受講決定通知をご確認いただき、基本研修を受講してください。

（受講決定された受講者が基本研修を無断欠席した場合、次回以降の当研修の受講に影響

がある可能性がありますのでご注意ください。）

イ　筆記試験

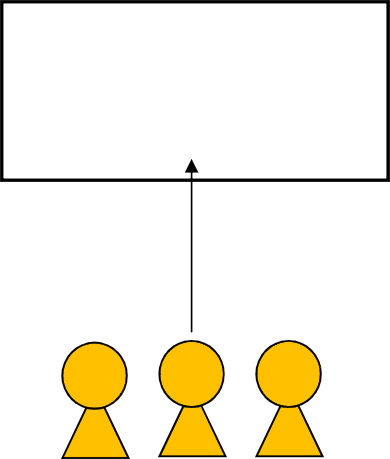
講義・演習の終了後に、筆記試験を受けていただきます（各３０分程度、択一式）。

※　筆記試験において総正解率が９割以上で合格となり、実地研修へすすんでいただきます。

ウ　実地研修の実施（※　１０ページを参照）

筆記試験に合格した方のみ、実地研修を受講することができます。

※　基本研修の受講者の実地研修は、筆記試験合格の翌日からとなります。



センター

**研修受講**

介護職員等

（受講者）

### （４）指導者養成研修の受講から受講確認証の交付まで

ア　指導者養成研修の受講（自己学習）（下記の図中の①を参照）

（ア）実地研修の指導看護師となるためには、「指導者養成研修」（自己学習形式）を受講していただく必要があります。

（イ）本研修の受講者を決定した後、指導看護師の派遣を承諾した事業所（以下「指導看護師派遣事業所」という。）に、指導者養成研修の教材案内を送付します（希望した事業所のみ）。

（ウ）教材視聴等により、実地研修におけるたんの吸引等の指導方法を自己学習していただきます。

（エ）自己学習後に指導者養成報告書(以下「アンケート」という。)をセンターに提出した後、実地研修の指導・評価を行うことができます。なお、最終評価（評価票への署名）が出来る

方は、医師、保健師、助産師、看護師（正看護師）のみです。

「指導養成事業修了証書」は、下記②のとおり後日センターから送付しますが、実地研修

　　　　開始前に送付することができないため、指導看護師がアンケートを提出した後より実地研修を開始す ることが認められています。

**※**　**他の登録研修機関が実施した特定の者対象指導者養成研修を受講しアンケートを提出した方、または公益財団 法人日本訪問看護財団の実施する「喀痰吸引・経管栄養セミナー」を修了している方は、今回、新たに指導者養成研修を受講する必要はありません。**

イ　「指導養成事業修了証書」の発行・送付 （下記の図中の②を参照）

指導看護師派遣事業所は、各看護師等が記入したアンケートを取りまとめ、センターに提出してください。アンケートを提出した指導看護師については、後日、センターが指導者養成研修の「指導養 成事業修了証書」を発行し、各指導看護師派遣事業所等に送付します。

② 指導養成事修了証書の発行・送付

指導看護師 派遣事業所等

修了証書の発

行・送付

修了証書の配付

センター

動画視聴

案内

動画視聴

アンケートの

取りまとめ・提出

アンケート提出

看護師等

　　　　　　　　　　① 指導者養成研修の受講（自己学習）

### （５）実地研修の実施（下記の図中の①を参照）

ア　受講者は、指導看護師の指導により、利用者に対してたんの吸引等を実施し、評価を受けてください。指導看護師は、利用者の状況に応じた、たんの吸引等の方法を受講者に指導してください。

イ　実地研修は、介護職員等が２回連続、全ての項目で「手順通り実施できる」と指導看護師に評価されるまで繰り返し実施します。指導看護師は作成した評価票を指導看護師派遣事業所を通してセンターへ提出してください。

※　実地研修期間については受講決定の際にご案内いたします。概ね、基本研修修了後より３カ月程度を予定しています。

※　特段の理由により期間内に実地研修を終えることができない場合は、実地研修期間の延長申請を行い、センターの承認を得た場合のみ、実地研修期間を延長することが可能です。

※　実地研修期間の延長申請は、ホームページより必要書類をダウンロードし記載の上、当初の実地期間終了予定日前までに受講者所属施設・介護事業所よりセンターに送付してくだい。

指導看護師等の

派遣依頼

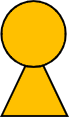
承諾

指導･評価

⇒評価票の作成

評価票の提出

指導看護師派遣



指導看護師 派遣事業所

**同意**

施設・介護事業所等

利用者宅等

利用者

介護職員等

（受講者）

看護師等

（指導看護師）

① 実地研修の実施

### （６）実地研修終了から修了証明書交付まで

ア　評価票の取りまとめ・提出（下記の図を参照）

　　指導看護師派遣事業所は、指導看護師が作成した受講者の評価票を取りまとめ、センター

へ提出してください。

イ　修了証明書の交付

（ア）センターで評価票の内容を確認の上、確受講者に交付する修了証明書を発行し、施設・介護事業所等宛に送付します。

（イ）施設・介護事業所等は確受講者へ修了証明書を配布してください。

ウ　評価票作成に対する謝金の支払い

受講者が所属する施設・介護事業所等は、提出された評価票が確認された評価票の内容を確認し、指導看護師派遣事業所に謝金を支払ってください。

※　ただし、自施設に所属している看護師等が指導看護師として指導し評価票を作成した場合は 除きます。

ア　評価票の

取りまとめ・提出

ウ　評価票作成に

関する謝金の支払い

イ　修了証明書の交付

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
| |  | | --- | |  | |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  | 修了証明書の配付 |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  | 修了証明書の交付 |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |  |

**※　指導看護師に対するセンターからの謝礼の支払いはありません。**

**受講者が所属する施設・介護事業所等から連携する訪問看護事業所等（指導看護師派遣事務**

**所）への支払いとなりますのでご注意ください。**

参考２：特定研修修了者で新たに実地研修の受講が必要となるケース

**（研修申込前）**

介護職員Ａさんは２８年度第１回特定の者研修に参加し、基本研修（概論、たんの吸引、経管栄養）を受講し試験合格後、利用者Ｂさんには口腔内吸引と経鼻経管栄養を利

用者Ｃさんに口腔内吸引を実地研修（２回連続の全項目「手順通り実施できる」）をそ

れぞれ行い、修了証明書の交付を受け、従事者認定等を受けている。

利用者Ｂさん（口腔内吸引、経鼻経管栄養）

介護職員Ａさん

利用者Ｃさん（口腔内吸引）

**（研修申込時）**

この度、利用者Ｃさんに対して新たに経管栄養が必要となった。また、口腔内吸引と

経鼻経管経管栄養が必要な新たな利用者Ｄさんが増えた。

利用者Ｂさん（口腔内吸引、経鼻経管栄養）

介護職員Ａさん

利用者Ｃさん（口腔内吸引、経鼻経管栄養）

利用者Ｄさん（口腔内吸引、経鼻経管栄養）

上記の例の場合、介護職員Ａさんは、以下の研修科目について受講が必要になります。

1. 利用者Ｂさん：すでに修了や認定を受けている行為であるため、研修申込不要。
2. 利用者Ｃさん：新たな行為を行うため、当該行為について実地研修が必要。
3. 利用者Ｄさん：新たな利用者に対して行うので、口腔内吸引及び経鼻経管栄養の実地研修が必要。

⇒**同じ利用者であっても、新たな行為を行う場合は、実地研修の受講が必要。**

**既に行っている行為であっても、利用者が異なる場合は、その利用者に対し 当該行為の実地研修の受講が必要です。**